

みずのうえ文化センターとは？

愛知県・豊橋駅近く、水路の上に立つ世にも珍しい商店街ビルの一群、通称“水上ビル”にこの春、「みずのうえ文化センター」がオープンします。

場所は現在、商店街の集会所として使われている大豊ビルB2棟の3階。1階には「みずのうえビジターセンター」があります。みずのうえは愛知県内で行われた国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2016」の期間中、アーティストを招いたワークショップや来場者への情報提供などを担う案内所として整備されました。閉幕後は、空き店舗を活用したフリースペースとして、ときには商店街主催の福引会場、ときにはアーティストのパフォーマンスの場となり、まちに馴染みながら、その役割をはたしてきました。「アート」と「カルチャー」に対して寛大なこの場所に文化センターを置き、水上ビルのクリエイティブの拠点にしていきます。

文化センターを運営するのは、水上ビルにアトリエを構え、豊橋を拠点に世界的に活動する舞台映像作家・山田晋平をはじめ、民間と公共施設で働くメンバー。2023年4月から月1回程度、専門的でありながら実験的なコンテンツを継続的に生み出していきます。

みなさんの創造性をちょっと刺激して、感性を少し磨くような、そんなものを発信する場所にしていきたいと思えます。



Twitter: @mizunoue_BC
Instagram: mizunoue_BC

最新情報は
こちら



みずのうえ文化センター
NEWSページ
<http://ekidesign.info/news/>

毎月の水あび

毎月のイベントは「〇月の水あび」と名付け、「アート」と「カルチャー」を軸に、トークイベント、ワークショップ、音楽ライブなどを企画していきます。毎回異なるメンバーがホスト役を務め、このまちに暮らす皆さんがワクワクできるような機会を提供します。ロゴマークは茨城県水戸市を拠点に活動し、言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに、多様な作品を制作する中崎透氏にお願いしました。2022年度芸術選奨の新人賞を受賞した注目の美術家です。



大豊商店街

水上ビルの一 corner にある大豊商店街。戦後の闇市を端緒に発展し、高度経済成長期にかけ熱のある時代を生き抜いてきた老舗の卸問屋と、現在ではコーヒースタンドやクラフトビールなどの新店舗とが混在し、独特な空気感を醸しています。また、バスケットボール男子Bリーグ・三遠ネオフェニックスのホームタウン商店街という一面もあります。1964(昭和39)年建設のビルは来年で築60年、還暦を迎えるこのビルで商店街はまだまだ元気です！



● 実行委員長プロフィール

山田晋平 YAMADA Shimpei

舞台芸術と現代美術分野の映像制作が専門。2013年、愛知大学文学部准教授着任を機に豊橋に移住。映像作家としての国際的な活動と並行して、豊橋市民を対象としたワークショップやプロジェクトに携わり、芸術の教育普及も着々と実施してきた。20年3月、愛知大学退職後、大豊商店街に移り住み、アトリエ兼自宅「冷や水」を開設。21年、(株)青空を設立。

● 実行委員会メンバー

山田晋平、渡邊靖典、黒野有一郎、塩見直子、平松章也、本多俊文、丸地加奈子 ほか

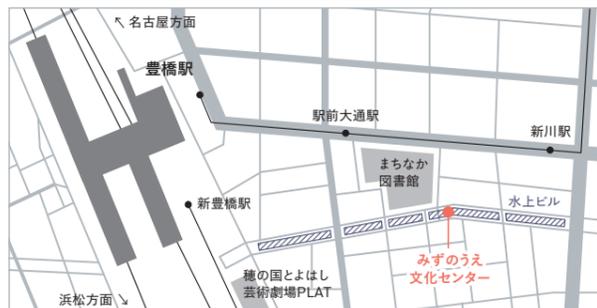
● お問い合わせ／お申込み先

Mail: mizunouecenter@gmail.com

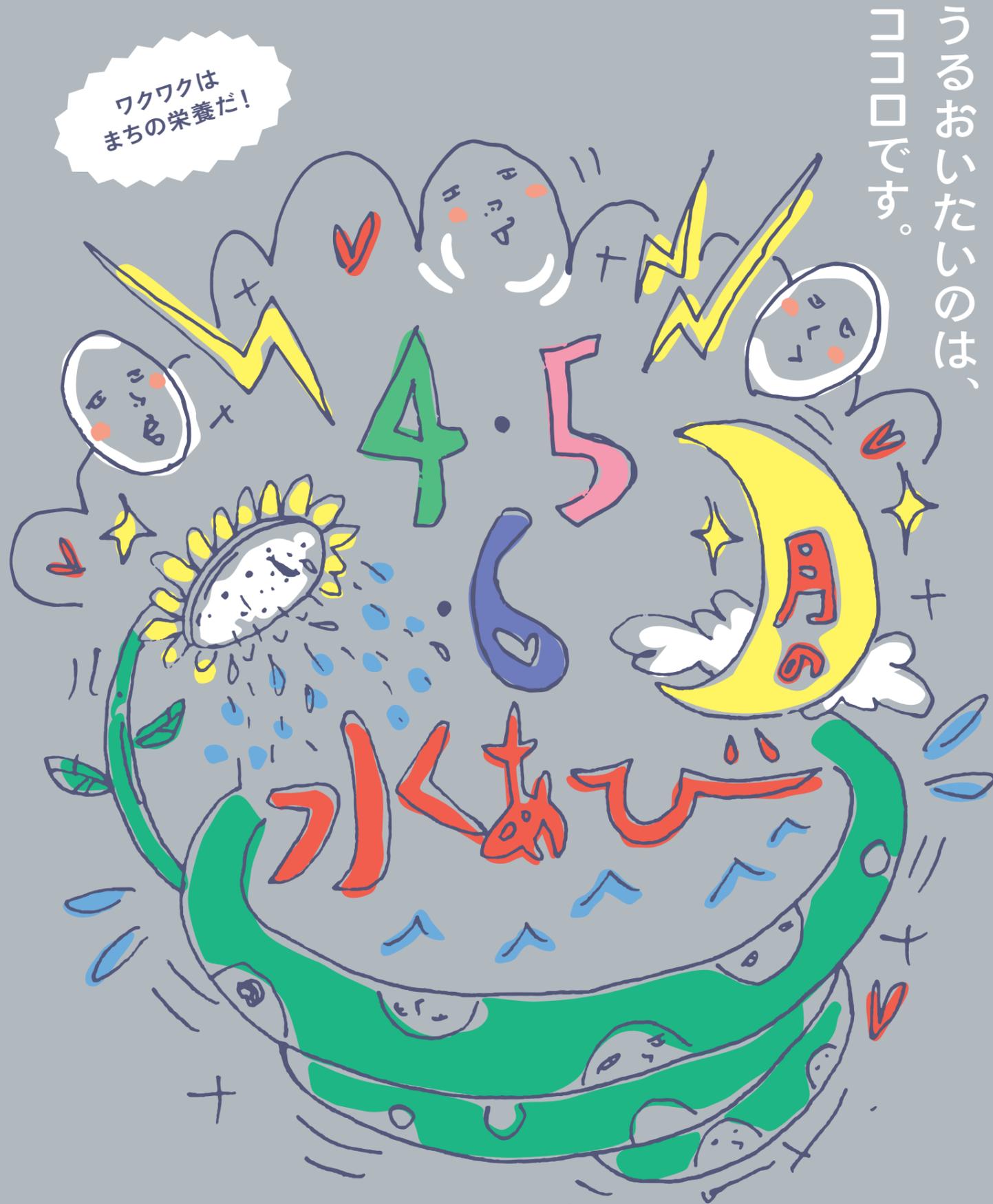
Tel: 090-3956-5444 (担当: 渡邊)

● アクセス

〒440-0888 愛知県豊橋市駅前大通3丁目118番地先大豊商店街B-2棟
SANTOKU横(外階段のぼる)



● 主催: みずのうえ文化センター実行委員会 ● 後援: 豊橋市



4.26 水 背中を流そう！
文化混浴トーク

6.3 土 だもんでおしゃべりも好きって
言っとるじゃん！ vol.1

5.27 土 いろをみつける・
いろをつくる

6.24 土 感じる、覚える、作る
——手でみる彫刻作り体験



4月 の水あび

トーク

背中を流そう！文化混浴トーク

日時：2023.4.26(水) 19:00-20:30 会場：みずのうえ文化センター
出演者：みずのうえ文化センター実行委員会のメンバー全員

キックオフイベントとしてまずは我々の自己紹介をしたいと思います。1階みずのうえから屋上までを貸し切り、各階にてトークでもてなします。登壇者は、舞台映像作家の山田晋平と、アート分野に精通した劇場や美術館など公共施設の職員、「とよはしまちなかスロータウン映画祭」スタッフ、水上ビルに店を構えるレコードショップ店長ら運営メンバー。異なる専門

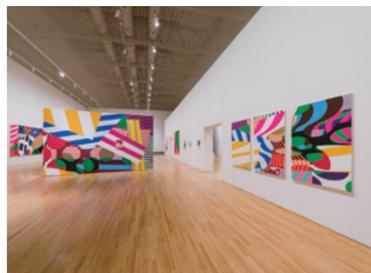
性を持ち、出自も年齢も性別もバラバラなメンバーが2~3人のユニットとなり、みずのうえ文化センターの発足経緯やそれぞれの思いを会話に乗せて届けます。アートのワークショップも用意し、1階ではドリンクを提供するバーもオープン。生活の匂いがありつつも日常と非日常をシームレスに行き交う夜の水上ビルでお待ちしています。

参加費：500円(1ドリンク付、中学生以下無料) 申込み方法：不要

5月 の水あび

ワークショップ トーク アート

いろをみつける・いろをつくる



「スカートと風景」展示風景、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 Photo: KEI OKANO

日時：2023.5.27(土) 14:00-16:00 会場：みずのうえ文化センター
講師：今井俊介(美術家)、中内茂樹(豊橋技術科学大学教授)

街にはたくさんの色があふれていますが、そのほとんどをなんとなく見過ごしているのではないのでしょうか。どんな色がどこにあるのか、気にしながら街歩きをしてみると、様々な色が見えてくると思います。例えば、「みどり」と聞くと、人それぞれ違った「みどり」を思い浮かべます。その「みどり」を探すうちにぜんぜん違う「みどり」が目に入ってくるはず。そんなふうに普段とは違う見方で発見した色を絵の具でつくり、その色に名前をつけてみましょう。自分だけがわかる混色のレシピに名前をつけるとすこし愛着もわくし、世界がちょっとだけ複雑に見えてくるかもしれません。

第二部では、色彩を認識するメカニズムを研究する豊橋技術科学大学の中内茂樹教授を迎え、表現者と研究者、それぞれの立場から色彩にまつわる興味深いトークを繰り広げます。

定員：15人 対象：高校生以上 参加費：500円
申込み方法：WEB/メール/電話
<https://forms.gle/xk5mXtbiGfSVrGCU6>

申込みフォーム▶



Photo: Kazuhito Tanaka

今井俊介 IMAI Shunsuke

美術作家。絵画の基本的要素である、色、形、空間についての考察を元に作品を制作。カラフルなストライプ柄が重なり合う構図を描き、平面の可能性と「観ること」の根本的な意味を探究する。4/15より東京オペラシティアートギャラリーにて個展「スカートと風景」を開催。



中内茂樹 NAKAUCHI Shigeki

豊橋技術科学大学情報・知能工学系教授。色覚・質感認知などの視知覚や視覚認知機構に関する基礎研究とともに、視覚科学に裏付けされた視覚技術に関する研究に従事。近年、絵画の配色にみる鑑賞者の普遍的な嗜好について、ポルトガルのミーニョ大学と共同研究を行っている。

6月 の水あび

トーク

だもんでおしゃべりも好きって言っとるじゃん！ vol.1

日時：2023.6.3(土) 19:30-21:00(開場 19:00) 会場：みずのうえ文化センター
ホスト：佐野 妙(漫画家) ゲスト：五式犬(の中の人)

愛知県豊橋市在住の4コマ漫画家で、「だもんで豊橋が好きって言っとるじゃん！」をまんがライフオリジナル(竹書房)で連載中の佐野 妙さんが、豊橋にゆかりのある方々と愉快なおしゃべりを繰り広げます。不定期開催のトークイベントはその名も「だもんでおしゃべりも好きって言っとるじゃん！」。佐野さんが独自の視点で見つめる豊橋や日常のあれこれについて、ゲストと語られます。

初回ゲストは豊橋市にあるプラモデルメーカー・ファインモールドの公式マスコット「五式犬」としてツイッターで呟いている中の人。どんな話題でおしゃべりをするのか、他では聞けない話がかもしきたら出てくるかも!? 貴重なトークイベントをお楽しみください。



佐野 妙 SANO Tae

豊橋出身豊橋在住漫画家。代表作は豊橋を題材にした四コマ漫画「だもんで豊橋が好きって言っとるじゃん！」(竹書房)他アニメ化もされた「森田さんは無口」(同)「理想のおとなりさん」(ぶんか社)「ホントはダシたい山車さん」(双葉社)連載中。



©BIRD STUDIO・FINE MOLDS

五式犬(の中の人) Goshikiken

プラモデルメーカー、(有)ファインモールドが本社に配備する四足歩行式偵察警戒デバイス。またの名を取締役警備部長と称するが早い話がタダの番犬。同社公式マスコットのTwitterを担当する中の中は豊橋在住20年を超えますが未だ豊橋っ子にはなりません。

ワークショップ
アート

感じる、覚える、作る —— 手でみる彫刻作り体験

日時：2023.6.24(土) 13:00-15:00
会場：みずのうえ文化センター
講師：タン・ルイ(美術家)



「本能のもう一つの扉」 Photo: TAN RU YI



「The LAMRON series: Run & Sit」展示風景 Photo: M. MOCHIZUKA

マレーシア出身の美術家タン・ルイさんを講師に迎え、彫刻作りのワークショップを開催します。アイマスクを付け、目隠しをした状態で、モチーフに触れ、感じ、粘土で作る。目でみる鑑賞、目でみる創作から逸脱し、目にみえない世界に感覚を広げたら、手先から何がみえてくるでしょうか? お喋りしながら制作して、最後にお互いの作品を鑑賞します。「目に見えないモノを、手で捉えて見る」がテーマですので、その道に精通した、目の不自由な方の参加もお待ちしています! こちらは、こども未来館こここで開催されるタンさんの企画展「うむ、ふえる、あふれる展 - 空想生物を生み出そう! -」(6/10~7/2)との連動企画です。

定員：20人 対象：高校生以上 参加費：500円
申込み方法：WEB/メール/電話
<https://forms.gle/W2tzYwATaVVKorVdA>

申込みフォーム▶



タン・ルイ TAN RU YI

美術家。クアラルンプールで生まれ育つ。名古屋造形芸術大学大学院実験型美術研究修了。現在静岡県袋井市在住。身近にあるもの、例えば、ダンボール、洗濯バサミ、付箋等の素材を使って、誰もが内包している事物との関係を抽出して、改めて問かける作品を展開する。近年は、NORMAL(標準、正常、平均、普通、規定)の反対から綴ったスベル「LAMRON(ラムロン)」をテーマにしている。普段生活している中で見慣れたものの存在にも視覚の角度を変えることによって無限な次元、視点を捉えられる。近寄って遠く離れて幻のような世界へ。